

平成28年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：平成28年7月22日（金） 10:00～11:50
2. 場 所：石川県庁1109会議室
3. 出席状況：委員12名
4. 議 題：(1)いしかわ森林環境基金事業の取組実績の検証及び今後の方向性に
係る検討について
(2)いしかわ森林環境基金事業の主な取組実績と成果について
(3)近年の森林・林業を取り巻く状況について
5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）

(1) いしかわ森林環境基金事業の取組実績の検証及び今後の方向性に係る検討について

委員各位異議なし

(2) いしかわ森林環境基金事業の主な取組実績と成果について

〈評価意見〉

- ・強度間伐や侵入竹林の除去により下層植生が増加傾向にある。二酸化炭素の吸収効果も明らかであり、高く評価して良い。
- ・石川県の人工林の総面積約10万haの内の2万haがこの10年間で整備できる見込みとなったことは、関係者の努力のおかげだと思う。
- ・10年間で実施した強度間伐は非常に大きな成果があった。モニタリングもしっかり行われている。
- ・ソフト事業の実施により、県民の各層に森林の機能の大切さ等に対する理解が浸透したと感じる。

〈課題意見〉

- ・不在村者等により整備ができていないところについては、難しい面もあるが、努力する必要がある。
- ・ハード事業に比べソフト事業の評価が少ない。
県の森林を管理・活用していく上での課題について、もう少し分析が必要ではないか。
- ・県民参加の森づくりやCSRの活動などのソフト事業については、具体的な目標を立てて取り組むべき。
- ・森林環境税が活用されていることについて、もっと県民に周知すると良いのではないか。

(3) 近年の森林・林業を取り巻く状況について

- ・整備が必要と思われる暗い森林は、まだ多くあると感じる。
- ・山元立木価格が伸びていないことが本当に残念である。住宅建材等への利用が進み、森林所有者の収入に還元されることを望む。もっと山村が活性化すれば、クマの出没など野生獣の問題も少しは改善していくと思う。

平成 28 年度 第 1 回いしかわ森林環境基金評価委員会

日時 平成 28 年 7 月 22 日（金）10:00～

場所 県庁行政庁舎第 1109 会議室

1 開会

2 農林水産部長あいさつ

3 議事

(1) いしかわ森林環境基金事業の取組実績の検証及び今後の方向性に係る検討について

(事務局) (資料 1 説明)

(委員長) ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見をいただきたい。

〈委員より特に意見なし〉

(委員長) 本年度の当評価委員会については、年間計 4 回程度開催し、委員会としての意見の集約を図っていきたいと思うので、よろしく願いたい。

(2) いしかわ森林環境基金事業の主な取組実績と成果について

(事務局) (資料 2-1、2-2 説明)

(委員) 今のお話しにあるように、間伐による下層植生への効果、それと侵入竹林の除去により下層植生が増加傾向にある。このことについて高く評価して良いと思う。

それから、間伐による二酸化炭素の吸収効果についても明らかであると思う。

それに対して、緩衝帯の整備、里山の間伐等がなかなか思うように行われず、住居地のすぐ側までイノシシやクマが出てきているという問題がある。そのような中でモデル的に実施した緩衝帯の整備を行った地域の評価として、しっかりやったところは評価に繋がっているが、しっかりできていないところは評価に繋がっていなかった。

戻りまして、強度間伐と利用間伐の効果、整備状況を見ると、強度間伐が計画 17,400ha に対し、実績見込みが 13,550ha、利用間伐が計画 4,600ha に対して実績見込みが 6,500ha ということで、道路の整備等により利用間伐が森林環境税を使わないで行われたことにより解消を図った。一方で先ほどのような、野生獣と里山の境界の整備、特に不在地主が多くてまだ伐採ができていないところが課題であると、そういったところがこれからの問題になると感じた。

不在地主の森林はどれくらいあるのか。

(事務局) 不在地主の問題で残っている箇所は 1,000ha あり、これは当初計画の 22,000ha

の中で、1,000haについてはできていないところである。

(委員) 1,000ha とはどれくらいの規模なのか。利用間伐が期待できるところも 1,000ha とかなり広く感じるが。

(事務局) 点在しているので、場所的にまとまっているのではなく散らばってあるということ。

(委員) 一時期、国で法律を作ったとの要望の声があったが、その後なかなか進捗していないようだ。これに対する対応はどの様に考えているか。

(事務局) 制度的には不在地主の対応は作っていただいたが、最終的に制度を使ってまで進めていくというのが難しい状況。実際的には、例えばお盆や暮れに里帰りされた際にお会いして承諾をいただくというような地道な取り組みを進めさせていただくことで、これまで取り組んできたし、残りについてもそういった対応になると考えている。

(委員) これまでにどれくらい実績があるのか。

(事務局) 不在地主の分でこれまでどれだけ整備したかまでの分析はできていない。

(委員) 所有権を持つてるから、なかなか難しい面もあると思うが、これは努力する必要があると思う。

(委員長) ありがとうございます。

不在地主の問題でなかなか進んでいないということですね。

(委員) 強度間伐については目標の 22,000ha は達成できなかったとはいうものの、石川県の人工林の総面積 100,000ha の内の 20,000ha がこの 10 年間で整備できたということは、関係の皆様非常に頑張っていたいただいたおかげだと思う。

強度間伐の跡地に若い雑木がどんどん生えてきて公益的機能を発揮しだした。県民の水瓶としての機能もだんだん強化されつつあるということで、本当に皆様のご協力のおかげで、納税していただいた皆様にも胸を張って報告できるなと思っている。

竹林については、当初はこんなひどい状況になるとは思っていなかったのだが、温暖化の影響もあるのか、どんどん増えてきて、これについても県民の皆様にご理解をいただいて、柔軟に竹林についても対応していただき、公益的な効果が出ているということで安心している。

最後にソフト事業については、やはり、納税をしていただいている皆様方に、しっかりとご理解いただいて、応援していただかないといけないという大前提があるが、私はどなたからも「そんな無駄なお金をつかって」という苦情を受けたことはない。

やはり、このソフト事業でしっかりと県民の各層の方々に、森林の機能の大切さや、森林の

機能を維持することの大変さなどが、浸透しているのだなと感じている。
そういうことで、感謝申し上げたいと思う。

(委員長) ありがとうございます。

委員からは、この事業が順調に進んでいるとの評価をいただいた。

(委員) 10年間で実施した強度間伐は、非常に大きな成果があったと思う。

また、竹林に関しても対応が始まった。

ただ、いくつかの点が気になると考えていて、一つは、私自身が生態学の研究者なので、森林の生態系の変化や伐採後の変化は、モニタリングのデータを取ってきっちり調べることが重要であると考えており、資料2-2でもきっちりと報告されていると思うが、県民参加の森づくり活動や安定した雇用の確保について、ソフト事業の中身についての評価が2ページほどしかなかった。しかももっと大事な雇用の確保や、林業の振興についても。

私は素人なのでこんなことを発言できるバックグラウンドはないが、県の森林を管理・活用していく上で問題点の解析が、ちょっと少ないのではないかなと感じた。

例えば、今里山利用の整備が進んできているが、クマが町のすぐ近くにまで出てきていて、金沢キャンパスの周辺でも出てきている。非常に困った問題が頻発している。

そういうときに、市民のボランティアとか企業のCSRがどれだけ役立つかということについては、また別の評価があると思うが、県民参加の森づくりやCSRの活動の時に具体的な目標を立てて取り組むべきではないかと思う。

例えば、街の近くであれば「野生動物が出てこない森づくり」などのはっきりしたスローガンを立てて目的を持ってみんなで取り組む。その上で本当に動物が出てきていないかは、アンケートだけではなくモニタリングをしていくべきだと思う。

私は、森づくり活動の広がりについては、確かに活動は増えているが、活動の目標をしっかり決めて、県民全体で獣害や竹林の課題を何とかしていくというはっきりとした達成目標をもう少し踏み込んで作ったり、それから、たくさんの参加されている方や企業がどの程度森林の問題を把握されているかについても、もう少し分析が必要ではないかと思う。

(委員長) ありがとうございます。

県民参加の森づくりについて、もう少し内容を深掘りしていただければとのご意見であった。

(事務局) たしかにこのソフト事業のところは、まずは県民の皆様に森林のことをわかっていたで、参加していただくということを目的に始めたもので、現段階で数字的には明らかにできるものは、例えば団体数の推移、参加者数の推移といったものになるが、どちらかといえばアウトプットの的なものであって、委員ご指摘の通りアウトカム、成果の部分でどういう評価ができるか。一つは、定性的かもしれないが、参加いただいた方からアンケートをとって意識の変化などの調査をするなどの必要性はあると思うが、実感ツアーの参加者の方にはアンケートを実施しているが、企業などには実施していない状況。そう

いう上では、委員ご指摘のとおり、その辺の分析は必要であり考えてみたいと思う。

また、里山林の緩衝帯を整備したところでどの様になっていくかについては、実際にアンケートは取っているが、可能であれば実際の野生獣の出没状況についても、地元も含めてということになると思うが、長い目で考えていく必要があると思う。貴重なご指摘をいただいたので、今年度のまとめの中で少し補強できる場所は補強させていただき取りまとめをしたいと思う。

(委員長) ありがとうございます。

(委員) 参考資料でよいので。

(委員) 可能な範囲でよいので。

(3) 近年の森林・林業を取り巻く状況

(事務局) (資料3 説明)

(委員) まず、先ほどの報告の感想だが、間伐の実施箇所を落とした地図を見ると全県下にわたって事業が実施されたことがわかった。林業関係者の方々がよく頑張られたなと思った。

ただ、委員が先ほど言われたように人工林 100,000ha の内、20,000ha を整備したということだが、私の家の周辺でもまだ整備が必要と思われる暗い森林が多くある。

次に、山元立木価格が伸びていないのが本当に残念だと思う。住宅建材にもっと利用すれば山持ちの方々も収入が潤って、もっと山村が活性化するし、野生獣の問題も少しは改善していくと思うのだが、なぜ石川県の住宅建材の利用が伸びないのかと考えている。

(事務局) ご指摘の山元立木価格については、下降傾向であり、木材価格についてはそうそう高くなる可能性は低いと考える。ただ、この山元立木価格は生産コストを下げることで引き上げることがある程度可能と考えており、そういったことから、多くの作業道を開設したり、林業機械を導入するなどの取り組みを進めさせていただいている。住宅建材に県産材をということで、確かに木材需要の大層が住宅建材であり、今回も少し紹介させていただいているが、CLT の加工施設、そして、ここでは紹介していないが、不燃木材の加工施設の整備にも支援をしており、そういった分野での利活用にも取り組んでいきたいと考えている。

22,000ha あった手入れ不足人工林の内、6,500ha が利用間伐が可能となり、林業界にとっては嬉しいとこだと考えている。

(委員長) 人工林の樹齢が上がり、伐期を迎えているのに利用が進まないというジレンマがあるということ。

(事務局) 若干補足をさせていただくと、確かに木材価格そのものの上昇は難しい中で、最終的には山主さんの手元にいくら入るかという問題がある。それが少ないため主伐が進

まないとということで、その為にはコストを下げていくという切り口があると思う。高性能林業機械の導入も進めているし、コマツと連携の取り組み、主伐の際のコストを下げるための取り組みを行っている。例えば、モデル的に人力で行っている資源量調査にかえてドローンによる調査を行ったり、切り出しから出荷に係るところで効率化を図れるところの分析などを行って、少しでもコストを下げることで、山主さんが木を切り出す、再造林をする切っ掛けとなると考えており、成果はまだまだこれからなのだが、そういった取り組みを始めたところであり、何とか良い方向に持って行きたいと考えている。

(委員) 先ほどの建築材の利用の件だが、私も家をリフォームしようと思い、現在の家は外壁にすべてアテ材を使用しており、リフォームの際にもアテ材を使用したいと思ったが、非常に高くて予算がかかった。また、一部県産の合板を使用したけど、外壁を外すと中側は綺麗で新しいのですね。何かに利用できないかと思いながら、なくなって工務店に引き取ってもらった。山を管理されている方は、孫の代になってからやっと収入が入ってくるという大変なものなので、やはり、林業の方にも収入が多く、木を使いたいと思う方々の思いにも応えるために、コスト削減をして県産材が多く使われるようになればよいと感じた。

また、昨日山を見てまわったが、里山の方も整備されたところと整備されていないところは見てわかる。クマの出没の問題もあるし、不在村者の問題など大変なこととは思いますが、まだまだ整備しないといけない箇所はあると思う。

それから、森林環境税は500円だが案外意識していない方々が多くいると思う。金沢駅のベンチなどはまだまだ足りないと思うし、ベンチを増やして、森林環境税を活用している等のPRをすれば、もっと県民の皆さんに周知できるのではないかなと思った。

(委員長) ありがとうございます。他に意見はないか。
それでは、そろそろ取りまとめをしたいと思う。
今日は2点についてご検討をいただいた。

まず、これまでの取り組み実績と効果については、平成28年度末で手入れ不足人工林の整備は全体の約9割が終了する見込みだということ、それから強度間伐等の整備により、目指すべき広葉樹との混交林化が確実に進んでいること、そして下層植生の被度の回復により、水土保持機能が高まっているということで、税事業のこれまでの取り組みが本県の森林の公益的機能の維持、向上に大きく貢献していると理解させていただいて宜しいか。

(全員同意)

それから2点目は、近年の森林・林業を取り巻く状況について検証をしていただいた。
森林資源が成熟期を迎えて、今後は利用を通じた整備・保全と、その気運醸成が必要だ、もっと使っていただかないと改善しない状況が報告されたと思う。そして、森林の山地災害防止や、水源かん養機能等を低下させる放置竹林が存在し、これらを放置しておくことはできない。それからクマやイノシシの出没被害が増加しており、県民の安全・安心が保証されない恐れが出てきている。シカの問題は、まだ少ないのだが、ニホンジカの生息域

が拡大すると、これまでの獣害以上にシリアスな状況になるので、それを検討しないといけない。また、松くい虫の問題も依然としてある状況ということ。

今後の方向としては、本県の森林・林業を取り巻く状況を踏まえまして、さまざまな本当に難しい課題があることが理解できた。委員の皆様からいただいた意見を踏まえて、事務局の方で論点を整理していただき、引き続き議論を進めていく。

事務局には議論を進め易いような資料をお作りいただきたい。事務局に宿題ということで、これで宜しいか。

(全員同意)